

(参考資料)

1. 「Data Diver」とは

Data Diverとは、2015年にデータビークル社からリリースされたデータアナライゼーションツールです。従来のデータ分析・統計ツールは、その使用に高度な分析スキルや経験を必要とする専門家のためのものとは違い、Data Diverは高度な分析スキルをもたないユーザーでも意思決定に役立つ分析を簡単に導くことを可能にした分析ツールです。

ただ単にデータの傾向値や法則性を計算するツールではなく、利用者が実現したい状態を示すデータ「アウトカム」（顧客単価や利益率、廃棄率など）を設定すると、それに影響を与える要素「説明変数」（価格や天候など）を自動的に見つけ出すことができるツールです。高度な分析スキルや経験をもたない分析担当者でも、統計家でありデータ分析のエキスパートである西内啓が設計したシンプルな分析フローに従って操作を進めるだけで、意思決定に役立つ分析結果を導くことが可能です。SQL や R といったプログラミング言語を利用することなく、簡単な操作で高度なデータ加工や分析を行える点が大きな特徴になります。

2. 西内啓（にしうち ひろむ）氏 経歴

統計家／株式会社データビークル 取締役

東京大学医学部卒（生物統計学専攻）。東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野助教、大学病院医療情報ネットワーク研究センター副センター長、ダナファーマー/ハーバードがん研究センター客員研究員を経て、現在はデータを活用する様々なプロジェクトにおいて調査、分析、システム開発および人材育成に従事。2014年11月より株式会社データビークルを創業。自身のノウハウを活かしたデータ分析ツールの開発を行う。

3. 懸念される専門人材不足（2015年5月発表 IDC Japanのデータより）

ビッグデータに関連する情報システムなどインフラの国内市場は現在、年平均で27%の成長を遂げており、2019年には1469億円に上ると言われています。

市場拡大においては「ビッグデータ」自体の認知が過程段階であることや、企業の導入に対して消極的な姿勢を持つ企業がまだ多いことなどが課題として挙げられますが、本調査では導入を検討する企業における最大の課題は、「専門人材の不足である」という結果が出ています。

上記のことからも専門人材の育成は急務と考えられます。

